

# 福島のおゆき国会日誌

## < 予算委員会質疑 自らの保身しか考えていない岸田首相 >



14日の予算委員会で、岸田首相らに対して中国における日本人の拘束についてと政治改革について議論を行いました。

中国で拘束された日本人を解放するためには、政治力が利く国家安全局が居住監視する期間にトップレベルでの要求を行うことを提案したのですが、岸田首相は頓珍漢な答弁を行いました。また、公安調査庁から中国へ情報漏洩している深刻な事態の可能性について指摘しましたが、これも岸田

総理からは真剣な答弁がありませんでした。

岸田首相が企業団体献金の廃止や政策活動費の公開をやらない理由にしている「政治活動の自由」について、憲法 21 条からその意味を論じました。政治活動の自由は、表現の自由の一形態であって、「政治家の行動の自由」ではありません。これに対しても、岸田首相はおおよそ法学部出身とは思えない頓珍漢な答弁でした。



これらの岸田首相の答弁から、岸田首相は国民の安全や権利の確保など微塵も考えていなくて、如何に自分の立場を守るかということばかり考えているように思えます。こんな政治で果たしていいのか、与党の議員の皆さんにも決起を呼び掛けたいと思います。

議論の様子は YouTube からご覧ください



## < パレスチナ難民 UNRWA への支援は必要 >



14日、予算委員会での質疑の後は、すぐに「超党派人間の安全保障外交の推進を考える議員有志の勉強会」に出席しました。急遽来日された清田明宏国連パレスチナ難民救済事業機関 (UNRWA) 保健局長からの報告を聞きました。

日本は国連加盟以前の敗戦直後から UNRWA に資金を拠出し、日本人もこれまで多くが幹部に就いて来ました。しかし、最近 UNRWA 職員がイスラエルへの襲撃に加わっていたとのイスラエルの主張を根拠に米国等が資金拠出を停止し、日本もこれに歩みを合わせました。

清田局長が日本の資金停止についてかなり控えめに遠慮気味にお話するので、私がおもって率直に話すように促したところ、「パレスチナの人には本当に親日で、日本を頼りにしている。医療や食糧支援といった UNRWA しかできない仕事を止めさせないようにしてほしい」と悲痛な訴えをされました。

超党派の議員連盟で、パレスチナの悲惨な状況に日本らしい貢献ができるよう働きかけてまいります。



## < 人権外交議員連盟 明らかになる中国の人権問題 >

16日、人権外交を超党派で考える議員連盟役員会に出席しました。

世界の主要自動車メーカーなどがウイグルで強制労働によって製造されたアルミニウムを使用している疑惑を取り上げました。国際人権団体の調査に対して米国やドイツの企業は誠実に対応していますが、トヨタ自動車や中国の BYD はおざなりな対応をしています。いずれ、米国市場などから締め出されるリスクもあるので、その対応について議論いたしました。

そもそもこの問題の根幹にあるのは、14日の予算委員会でも取り上げた中国の人権問題です。

無所属の立場でも、超党派で与党の皆さんとも一緒に、物事を動かしてまいります。